

がん検診の結果が「要精密検査」の方は必ず精密検査を受けましょう!

がん検診では、精密検査が必要かどうかを調べます。がん検診で精密検査が必要（要精密検査）と判定された場合、「がんの疑いがある」可能性があります。より詳しい検査を行い、本当にがんがあるかを調べる必要があります。精密検査では、がん以外の病気を見つけられることもあります。

早期の大腸がんはほとんど自覚症状がありませんが、検診での発見で早期に治療をすれば、90%以上が助かります*。また、早期発見により、身体的にも経済的にも負担の少ない治療で済み、早めに日常生活に戻ることができます。

*ここでいう「助かる」とは、がんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合です。
出典：全国がんセンター協議会加盟施設における5年生存率（2009～2011年診断例）

痔の有無にかかわらず、便潜血検査陽性の場合には、大腸がんの可能性がります。また、前回精密検査を受けて「異常なし」だった場合も、再度便潜血検査で陽性だった場合は、ご自身で判断せず必ず精密検査を受けてください。

便潜血検査の再検査は精密検査ではありません。採取する便の場所によって血液量が異なるため、便潜血検査を再度受けて陰性であっても、大腸がんの可能性を否定できません。必ず以下の精密検査を受けてください。

検診の流れ

1. がん検診

- ・問診
- ・便潜血検査

2. 精密検査

検診の結果、「**要精密検査**」と判定されたら、精密検査を受診

3. 「がん」か「がんではない」か判明

大腸がん
大腸がん以外の病気

治療

異常なし

年1回
定期的ながん検診

主な精密検査の内容*

*他の検査方法がとられることもあります。

■ 全大腸内視鏡検査

精密検査として第一に推奨される方法です。内視鏡を肛門から挿入し、大腸の全部位を観察します。必要に応じて大腸粘膜の細胞を採取し、悪性かどうか診断します。



■ S状結腸内視鏡検査・注腸エックス線検査

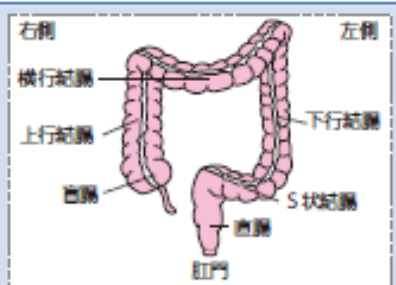
大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合は、直腸からS状結腸までを内視鏡で観察し、奥の大腸は肛門からチューブを挿入してバリウムを流し込み、エックス線で調べ、大腸の形の変化から病変を診断します。



大腸がんとは

大腸がんは、大腸（結腸・直腸・肛門）に発生します。

腺腫という良性のポリープががん化して発生するものと、正常な粘膜から直接発生するものがあります。



お問合せ先

調布市健康推進課

電話:042-441-6100

FAX:042-441-6101

Mail: kenkou@city.chofu.lg.jp